

# 新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド

追加型投信 / 海外 / 株式

月次レポート 1/6  
2021年9月30日現在

当ファンドは、特化型運用を行います。(※)

## 【ファンドの特色】

- 主としてインドの証券取引所に上場しているインフラ関連の株式を実質的な投資対象とし、中長期的な信託財産の成長をめざします。
- ファンド・オブ・ファンズ形式での運用を行い、主にインド株式へ投資を行う「Shinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited」Class B 投資証券(以下、「投資先ファンド」といいます。)への投資割合を高位に保つことをめざします。
- 投資先ファンドの外貨建て資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
- 投資先ファンドはインド国内の大手投信会社であるUTIグループが運用します。

## 【基準価額・純資産総額】

	2021/9/30	2021/8/31	前月比
基準価額	9,717円	9,184円	533円
純資産総額	12億円	11億円	0.3億円

\* 基準価額は1万口当たりとなっています。

## 【ファンドの騰落率(分配金再投資)】

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
ファンド	5.80%	13.54%	17.38%	78.20%	39.93%	-2.83%

- \* 騰落率を算出する基準価額は、信託報酬控除後、分配金再投資基準価額です。上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。
- \* 分配金再投資基準価額とは、基準価額に収益分配金(課税前)を、その分配が行われる日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、当社が公表している基準価額とは異なります。
- \* 騰落率は各月末営業日で計算しています。(各月末が休業日の場合は前営業日の値で計算しています。)

## 【分配金実績(1万口当たり、課税前)】

第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	合計
0円	0円	0円	0円	0円	0円

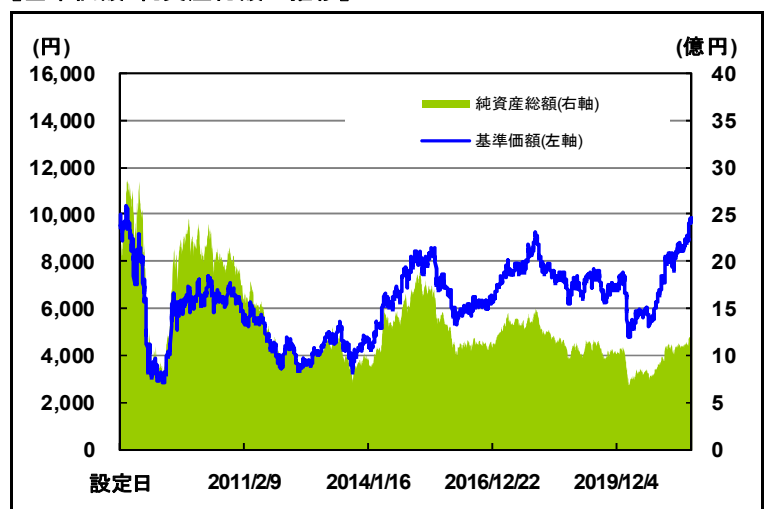
- \* 分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
- \* 分配金は一定の分配金額をお約束するものではなく、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

## 【運用資産構成比率】

Shinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited Class B 投資証券	98.8%
新生 ショートターム・マザーファンド	0.6%
短期金融商品等	0.6%
合計	100.0%

- \* 運用資産構成比率は純資産総額に対する評価額の割合で、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- \* 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

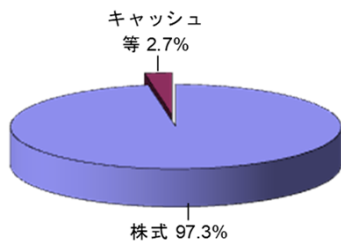
## 【基準価額・純資産総額の推移】



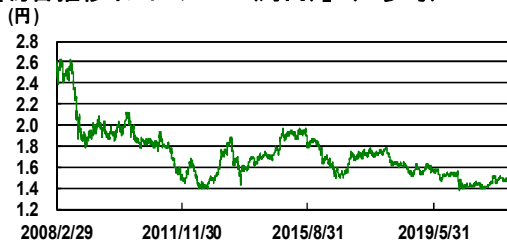
- \* 基準価額は、信託報酬控除後の値です。
- \* 投資先ファンドの運用管理費用を含めた実質的な信託報酬率は、純資産総額に対して年率1.954%(概算、税込)です。詳細は、【お申込みメモ】の【信託財産で間接的にご負担いただく費用】の項目をご覧ください。
- \* 上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

## 【投資先ファンドの組入状況】

### 【運用資産構成比率】

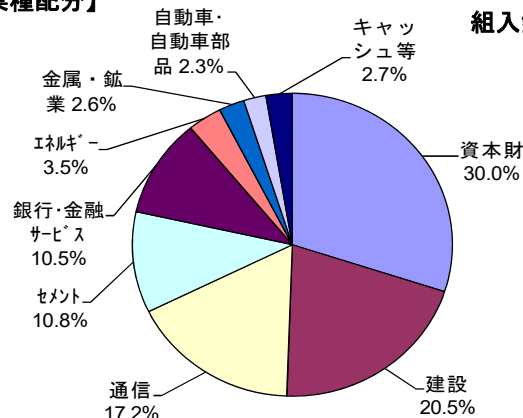


### 【為替推移インド・ルピー(対円)】(ご参考)



出所: Bloomberg

### 【業種配分】



組入銘柄数 21

- \* 【業種配分】の比率は外国投資法人であるShinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited Class B 投資証券の純資産総額をもとに算出した比率です。
- \* 上記の業種はUTIアセット・マネジメントの業種区分に基づいています。比率は四捨五入の関係上必ずしも100%にならない場合があります。

(※) 当ファンドの特化型運用においては、実質的な投資対象に寄与度が10%を超える、または超える可能性の高い銘柄が存在し、特定の銘柄への投資が集中する可能性があるため、そのエクスポージャーの純資産総額に対する比率が、35%を超えないよう運用を行います。

当資料は、新生インベストメント・マネジメント株式会社で作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。ファンドは、価値のある資産(また、外貨建て資産の場合、この他に為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資信託をご購入される受益者のみなさまに帰属します。取得のお申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目録見書)をお渡しますので必ず内容をご理解の上、ご自身でご判断ください。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また元本や利回りの保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合は、証券会社と異なり、投資者保護基金の補償の対象ではありません。投資信託のお申込み時には購入時手数料、ならびに運用期間中は運用管理費用(信託報酬)等がかかります。

# 新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド

追加型投信/海外/株式

月次レポート 2/6  
2021年9月30日現在

以下のコメントは、「Shinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited」Class B 投資証券(以下、「投資先ファンド」といいます。)の運用担当者のコメントをもとに作成したものです。また、下記の見通しは当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合がありますのでご注意ください。

## 【投資環境】

FRB(米国連邦準備制度理事会)は、9月のFOMC(米国連邦公開市場委員会)において、政策金利の誘導目標を0.00%~0.25%とする金融政策の維持を決定する一方、「雇用等に予想どおりの進展がみられれば、委員会は資産購入のペースを早期に縮小する必要があると判断している」と述べて、新型コロナウイルスの感染拡大の際に実施してきた景気刺激策を年内に縮小させることを示唆しました。また、パウエルFRB議長は、経済回復が続けば量的金融緩和の縮小を2022年半ばまでに完了させることが適切となる可能性がある、とすると共に、インフレ率や雇用における更なる進展について、FRBは目標達成に近づきつつある、と述べました。また、FRBの経済予測は、実質GDP(国内総生産)成長率予測の低下とインフレ期待の高まりなどを考慮して修正されました。FOMCは、2021年の実質GDP成長率を前年比+5.9%と、6月の同+7.0%の予測から下方修正しました。一方で、2022年の実質GDP成長率予測は、同+3.8%と6月の同+3.3%から上方修正されました。またFOMCは、6月時点よりもインフレ圧力が強くなったと考えています。2021年のコアインフレ率(食品、燃料等を除くCPI(消費者物価指数))は、FOMCが6月に予測した前年比+3%を同+3.7%に上昇修正しました。2022年のコアインフレ率は同+2.3%(6月時点:同+2.1%)と予測しています。

インドの8月のCPIは前年同月比+5.30%と、7月の同+5.59%から低下しました。これは主に、コアインフレ率が前月比で上昇基調を続けているものの、主に予想よりも低い食品関連のインフレ率に影響を受けました。食品・飲料関連のCPIは、肉や魚、卵、果物等が値下がりがりしたため、7月の同+4.50%から8月は同+3.80%に低下しました。8月の光熱費は同+12.90%と、7月の同+12.40%から上昇しました。都市部の8月のインフレ率は同+5.32%と、農村部のインフレ率である同+5.28%よりわずかに高くなりました。8月のコアインフレ率は前年同月比+5.90%となり前年同期比ベースでは7月と横ばいでしたが、前月比では+0.50%(7月:同+0.70%)と上昇基調が続いています。農村部のコアインフレ率は前年同期比+6.56%(7月:同+6.44%)と高く、都市部のコアインフレ率である同+5.43%(7月:同+5.67%)よりも高いままでした。世界的な商品価格の上昇と供給サイドのボトルネックの連鎖的な影響が続く、一方で需要が回復し始めているため、2021年度(2021年4月~2022年3月)のコアインフレは6.0%前後と予想されます。

インドの株式市場は、新型コロナウイルスのワクチン接種率が着実に上昇している安心感と、FRBが量的金融緩和の縮小に関する市場の懸念に対処していることから、力強い上昇を続けました。S&P BSE SENSEX指数は前月末比+2.73%の59,126.36インド・ルピー、S&P BSE100種指数は同+2.91%の17,880.57ポイントとなりました。最新のデータによると、海外の機関投資家は、インド株式市場で約11.4億米ドルの買い手であり、債券市場でも約14.9億米ドルの買い手でした。国内の機関投資家は、1ヶ月で約6.1億米ドルの流入を伴う株式の買い手でした。

2021年8月のインドのWPI(卸売物価指数)は、前年同月比+11.39%となりました。部門別内訳は、第一次産品が前年同月比+6.20%、燃料関連が同26.09%、工業製品は同+11.39%となりました。2021年7月のインドの鉱工業生産指数は、前年同月比+11.5%となり、耐久消費財が同+20.2%、非耐久消費財が同-1.8%となりました。部門別では、鉱業部門が前年同月比+19.5%、製造業部門が同+10.5%、電力部門は同+11.1%でした。用途別では、基礎財が同+12.4%、資本財が同+29.5%、中間財が同+14.1%でした。2021年9月17日現在のインドの外貨準備高は6,396.42億米ドルでした。外国為替市場では、9月はインド・ルピーが対米ドルでは前月末比で1.80%の下落、対円では同0.11%上昇しました。

## 【運用経過】

2021年9月の新生・UTIインドインフラ関連株式ファンドの運用実績は前月末比+5.80%となりました。投資先ファンドであるShinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited Class B 投資証券の9月の運用実績も同6.02%となり、投資先ファンドの組入比率は9月末現在98.8%でした。また、新生ショートターム・マザーファンドの9月の運用実績は前月末比-0.01%となり、9月末現在の組入比率は0.6%でした。9月末の投資先ファンドにおける株式組入比率は97.3%でした。

## 【今後の見通し】

インド国道庁は、高速道路の開発目標の設定と実行を迅速に進めています。全長1,380kmとインドで最長となる「デリー・ムンバイ高速道路」の建設は約89%が完了しており、66%が現在利用されています。他の同様のプロジェクトでも非常に大きな進展があります。長年にわたり、たゆまない予算支援を背景にした、政策および資金面の積極的な執行により、インド国道庁の実績は大幅に向上してきました。このことにより、潜在的なGDP成長の上昇につながるインドの道路整備は改善されると思われます。政府がインフラ整備に重点を置いており、その中で道路整備が重要な要素の1つであることから、道路整備は今後数年間は引き続き強力に推進されると予想されます。

# 新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド

追加型投信/海外/株式

 月次レポート 3/6  
 2021年9月30日現在

## 【組入上位10銘柄のご紹介】

現地月末最終営業日の新生・UTIインドインフラ関連株式ファンドの投資先ファンドの組入上位10銘柄の概要です。

銘柄名	業種	銘柄説明	組入比率
1 Larsen & Toubro Ltd ラーゼン&トウブロ	建設	建設会社・重機メーカー。大規模な建設プロジェクトを請け負うほか、海外重機メーカーのインドにおける代理店業務を手掛ける。主な製品およびプロジェクトは、ブルドーザー、ロードローラー、酪農機械、化学品・医薬品製造プラント、スイッチギア、食品加工機械、飼料工場など。従業員数40,527人(21年3月)。売上高1兆3,447億インド・ルピー(21年3月)。	18.4%
2 Bharti Airtel Ltd バーティ・エアテル	通信	電気通信サービス会社。主なサービスは、2G、3G、4Gワイヤレスサービス、モバイルコマース、固定電話サービス、高速DSLブロードバンド、IPテレビ、DTH、および法人向けサービス。世界各地で授業を展開。従業員数14,250人(20年12月)。売上高10,061億インド・ルピー(21年3月)。	16.6%
3 Grindwell Norton Ltd グラインドウェル・ノートン	資本財	ボンド・研磨布紙などの研磨製品メーカー。炭化ケイ素、酸化アルミニウム、工業用セラミックスの製造も手掛ける。さまざまな種類の集中給油装置(CLS)を製造する合併事業も運営。従業員2,006人(21年3月)。売上高162億インド・ルピー(21年3月)。	9.5%
4 Housing Development Finance Corporation Ltd ハウジング・ディベロップメント・ファイナンス・コープ	銀行・金融サービス	住宅ローンを専門とする金融会社。低・中所得世帯向け住宅ローンおよび企業向け長期貸付に従事。不動産開発業者向けの建設資金貸付や、インフラストラクチャーならびに公共財産の開発を手掛ける開発当局・企業向けのリースファイナンスも提供。従業員数3,226人(21年3月)。純利益1,874億インド・ルピー(21年3月)。	8.8%
5 Shree Cement Ltd シュリーセメント	セメント	セメントメーカー。セメントおよびセメント製品を製造。インド北部を中心に、自社ブランド名で製品を販売。従業員数6,259人(21年3月)。売上高1,347億インド・ルピー(21年3月)。	7.1%
6 Schaeffler India Ltd シェフラー・インド	資本財	ベアリングメーカー。ボール/円筒/球面/ニードル/テーパー・ローラーベアリングなど、各種ベアリングを製造、販売。同社の製品は、自動車およびエンジニアリング産業において、自動車、扇風機、モーター、ポンプ、繊維機械、鉄道客車、工作機械などに使用される。従業員2,794人(20年12月)。売上高376億インド・ルピー(20年12月)。	6.1%
7 Cummins India Ltd カムミンズ・インド	資本財	エンジンメーカー。ディーゼル、往復ピストン機関、ガスタービン、ガソリンなどの内燃機関油を製造。その他に、発電装置や、高級長距離バス、飛行場バスなどの公共交通機関向け自動車を製造する。加えて、コンピュータ化され、あらゆる設備の整った研究・開発施設を運営する。従業員数3,237人(21年3月)。売上高434億インド・ルピー(21年3月)。	4.2%
8 Thermax India Ltd サーマックス・インド	資本財	機械メーカー。エネルギー生成・省エネ用装置、機械を製造する。ボイラー、排熱回収蒸気発生器、水処理設備、大気汚染防止装置などの部門を通じて事業を展開する。複数の戦略的な業務提携を結び、蒸気・ガスタービン、ディーゼル発電セットを製造する。従業員数3,627人(21年3月)。売上高471億インド・ルピー(21年3月)。	4.1%
9 Ultra Tech Cement Ltd ウルトラ・テック・セメント	セメント	セメントメーカー。さまざまなセメント製品を製造。会社分割により別会社化されたラーゼン・アンド・トウブロ(Larsen & Toubro Ltd)のセメント事業を経営し、グラシム・インダストリーズ(Grasim Industries Limited)の子会社となる。従業員数21,592人(20年3月)。売上高4,472億インド・ルピー(21年3月)。	3.7%
10 AIA Engineering Ltd AIAエンジニアリング	資本財	セメント、鉱業、原子力発電関連企業で使われる高クロム耐磨耗性・耐腐食磨耗性部品を製造する。従業員1,350人(20年3月)。売上高281億インド・ルピー(21年3月)。	2.8%

出所: 各社ホームページ、Bloombergのデータをもとに新生インベストメント・マネジメントにて作成。

\*上記銘柄の説明は投資先ファンドにおける銘柄のご理解を深めていただくために作成したものです。当資料に記載された銘柄の上昇・下落を示唆するものではありません。また当資料に記載された銘柄への投資を推奨するものではありません。\*組入比率は外国投資法人であるShinsei UTI India Fund(Mauritius) Limited Class B 投資証券の純資産総額をもとに算出した比率です。\*上記の業種はUTIアセット・マネジメントの業種区分に基づいています。

当資料は、新生インベストメント・マネジメント株式会社で作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。ファンドは、流動性のある資産(また、外貨建て資産の場合、この他に為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資信託をご購入される受益者のみなさまに帰属します。取得のお申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので必ず内容をご理解の上、ご自身でご判断ください。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また元本や利回りの保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合は、証券会社と異なり、投資者保護基金の補償の対象ではありません。投資信託のお申込み時には購入時手数料、ならびに運用期間中は運用管理費用(信託報酬)等がかかります。

## 新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド

追加型投信 / 海外 / 株式

月次レポート 4/6  
2021年9月30日現在**【投資リスク】投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。**

当ファンドは、組入れた有価証券等の値動きにより、基準価額が大きく変動することがありますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様様に帰属します。また、外貨建て資産に投資した場合、為替変動リスクも加わります。したがって、ファンドにおける投資者の皆様様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの主なリスクは以下のとおりです。ファンドのリスクは下記に限定されるものではありません。

## 《主な基準価額の変動要因》

## 1. 価格変動リスク(株価変動リスク)

当ファンドは、主として投資信託証券を通じて株式に投資します。一般的に株式の価格は、発行企業の業績や国内外の政治・経済情勢、金融商品市場の需給等により変動します。また発行企業が経営不安となった場合などは大きく下落したり、倒産等に陥った場合などは無価値となる場合もあります。実質的に組入れた株式の価格の下落は基準価額が下がる要因となり、その結果投資元本を割込むことがあります。

また当ファンドは、先進国の金融商品市場に比べ、市場規模や取引量が比較的小さい国・地域の株式を実質的な投資対象としますが、そうした株式の価格は大きく変動することがあります。さらに、流動性が低い場合、想定する株価と乖離した価格で取引を行わなければならない場合などがあり、それらのことが基準価額の下落要因となり、その結果投資元本を割込むことがあります。

## 2. 信用リスク(特定銘柄集中投資リスク)

当ファンドは、実質的に組入れた有価証券等の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに対する外部評価の変化等により基準価額が影響を受け、投資元本を割込むことがあります。また、当ファンドの実質的な投資対象には寄与度が10%を超える、または超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、投資先について特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

特に新興国は先進国に比べ、発行者の経営・財務状況の急激な悪化や経営不安・破綻が起こりやすいリスクがあります。

## 3. 為替変動リスク

当ファンドは、実質的に外貨建て資産に投資しますので、投資した資産自体の価格変動のほか、当該資産の通貨の円に対する為替レートの変動の影響を受け、基準価額が大きく変動し、投資元本を割込むことがあります。為替レートは、各国の経済・金利動向、金融・資本政策、為替市場の動向など様々な要因で変動します。

また当ファンドは、先進国の金融商品市場に比べ、市場規模や取引量が比較的小さい国・地域を実質的な投資対象としますが、そうした国・地域の為替相場は大きく変動することがあります。さらに、流動性が低い場合、想定する為替レートと乖離したレートで取引を行わなければならない場合などがあり、それらのことが基準価額の下落要因となり、その結果投資元本を割込むことがあります。

## 4. カントリーリスク

当ファンドは、実質的に海外の資産に投資します。このため、投資対象国・地域の政治・経済、投資規制・通貨規制等の変化により、基準価額が大きく変動することがあり、投資元本を割込むことがあります。

特に新興国は、先進国と比較して、一般的には経済基盤が脆弱であるため、経済状況等の悪化の影響が大きくなり、そのため金融商品市場や外国為替市場に大きな変動をもたらすことがあります。また政治不安などが金融商品市場や外国為替市場に大きな変動をもたらすことがあります。先進国と比較し、経済状況が大きく変動する可能性が高く、外部評価の悪化や経済危機等が起こりやすいリスクもあります。さらに大きな政策転換、規制の強化、政治体制の大きな変化、テロ事件などの非常事態により、金融商品市場や外国為替市場が著しい悪影響を被る可能性があります。自然災害の影響も大きく、より大きなカントリー・リスクを伴います。

## 5. その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 金融商品取引所等の取引停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情がある場合等は、受付を中止することやあるいは既に受付けた注文を取消すことがありますのでご注意ください。
- 投資信託に関する法令、税制、会計制度などの変更によって、投資信託の受益者が不利益を被るリスクがあります。

# 新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド

追加型投信 / 海外 / 株式

 月次レポート 5/6  
 2021年9月30日現在

**【お申込みメモ】投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。**

ファンド名	新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド
商品分類	追加型投信/海外/株式
当初設定日	2008年2月29日(金)
信託期間	無期限とします。
決算日	原則として、毎年10月25日(休業日の場合は翌営業日)とします。
購入・換金	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入および換金のお申込みはできません。
申込不可日	●ボンベイ証券取引所の休業日 ●ナショナル証券取引所の休業日 ●モーリシャスの銀行休業日
申込締切時間	午後3時までに、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金単位	販売会社が定める単位とします。
収益分配	年1回の決算時に、原則として収益の分配を行います。 ※分配金を受け取る「一般コース」と自動的に再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。なお、どちらか一方のコースのみのお取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額(当該基準価額に、0.3%の率を乗じて得た額)を控除した価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して、7営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。益金不算入制度、配当控除の適用はありません。

お客さまには以下の費用をご負担いただきます。

**【直接的にご負担いただく費用】(消費税率が10%の場合)**

購入時手数料	購入価額に <b>3.85%(税抜3.5%)</b> を上限として、販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。 ※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。	当ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続き等の対価です。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。	

**【間接的にご負担いただく費用】(消費税率が10%の場合)**

運用管理費用 (信託報酬) (括弧内数字は税抜)	当ファンドの運用 管理費用・年率 (信託報酬)	<b>1.254%</b> (1.14%)	信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 ファンドの純資産総額に対し、左記の率を乗じて得た額が日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(当該終了日が休業日の場合はその翌営業日)および毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。
	(委託会社)	<b>0.429%</b> (0.39%)	委託した資金の運用の対価です。
	(販売会社)	<b>0.770%</b> (0.70%)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価です。
	(受託会社)	<b>0.055%</b> (0.05%)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
	投資対象とする投資 信託証券の運用管理 費用・年率	<b>0.70%</b>	管理・投資運用等の対価です。
実質的な負担・年率		<b>1.954%程度(税込)</b>	
その他の費用 ・手数料	当ファンド	財務諸表監査に 関する費用	監査に係る手数料等(年額682,000円(税込))です。 当該費用が日々計上され毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了の時にファンドから監査法人に支払われます。
		信託事務の処理に 要する諸費用等	法定書類等の作成費用、法律・税務顧問への報酬等です。 当該費用が日々計上され毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。ただし、ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とします。
	投資先ファンド	組入価証券等の売買の 際に発生する取引手数料	組入価証券等の売買の際、発注先証券会社等に支払う手数料等です。
		監査報酬	投資先ファンドの監査に関して監査法人に支払う手数料です。

※「その他の費用・手数料」につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ 上記のファンドに係る費用につきましては、消費税率の変更に応じて適用される料率をご参照ください。

※ 当該手数料および費用等の合計額については、ファンドの保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

当資料は、新生インベストメント・マネジメント株式会社作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。ファンドは、価値のある資産(また、外資建て資産の場合、この他に為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資信託をご購入される受益者のみなさまに帰属します。取得のお申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご理解の上、ご自身でご判断ください。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また元本や利回りの保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合は、証券会社と異なり、投資者保護基金の補償の対象ではありません。投資信託のお申込み時には購入時手数料、ならびに運用期間中は運用管理費用(信託報酬)等がかかります。

# 新生・UTIインドインフラ関連株式ファンド

追加型投信 / 海外 / 株式

 月次レポート 6/6  
 2021年9月30日現在

## 【委託会社、その他関係法人】

**委託会社** 新生インベストメント・マネジメント株式会社(設定・運用等)  
 03-6880-6448(受付時間:営業日の9時~17時)  
 ホームページアドレス: <http://www.shinsei-investment.com/>  
 登録番号 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第340号  
 加入協会 一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会  
**受託会社** 三井住友信託銀行株式会社(信託財産の管理等)  
**販売会社** 下記参照(募集・換金の取扱い・目論見書の交付等)

(2021年10月12日現在)

金融商品取引業者名(五十音順)		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問 業協会	一般社団法人 金融先物取引 業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○			
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			○
ばんせい証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第148号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
リテラ・クレア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○			